2015年9月15日号

Vol.8

季報 天才アート

〒605-0811
京都市東山区大和大路通四条下る４丁目
小松町 130 番地
天才アートミュージアム

http://tensai-art.com　特定非営利活動法人 障碍者芸術推進研究機構

京都のアール・ブリュット

◎前理事長退任挨拶／新理事長就任挨拶・・・２面
市民絵画教室の募集とご案内・・・・・２面
◎天才アートミュージアム展２０１５報告・・・３面
◎天才アートがやってきた！展 増殖中／
新道アトリエ近況～お面の制作・・・・・４面
◎ミュージアムグッズ紹介・・・・・・・５面
◎ギャラリー 作品紹介・・・・・・・６面
◎ウイーン・グッギング芸術村を訪ねて(前編)
フィレンツエ市に作品寄贈／青空美術館・７面
◎季報掲載広告とボランティアの募集・・・８面

―「天才アート」とは、障碍(しょうがい)のある人の優れた感性と表現力、そこから湧き出る独創的な作品に対してネーミングしたものです。

『太陽の塔の顔』2010年　土屋彰男　Akio Tsuchiya　　キャンバス／アクリルガッシュ　910×1170

理事長退任のご挨拶

私は、当機構の発足から四年余り、立ち上げを主たる目的に理事長として参加させていただきましたが、このたび一応の目処として退任することになりました。在任中は、会員等の皆様や関係諸氏から暖かいご支援を頂き、深く感謝申し上げます。発足時からは、二人の副理事長と役員理事の皆さんと共に、組織作りや活動の考え方と実施プランなど最もこの機構の根幹をなす作業に参加し、優れた才覚の副理事長、理事会メンバーに恵まれたこと、また登録作家達と保護者の方々にも大変恵まれてきました。

振り返り思い出すのは、第一に「この活動を従来の福祉としての捉え方でなく、芸術文化としてのアート」を目指したいという先進的な考えを共有して来たということ。第二に、登録作家たちが、驚くべき才能に恵まれ、飽くことなき創作エネルギーに溢れていること。第三に、京都市や京都市教育委員会のご理解のもと、作品制作の場や展覧会場について、大きなご支援をいただいたことです。感謝を申し上げたいと思います。

ところで、機構にとって幸先の良いことは、次期理事長に高島 寛氏が就任されたことです。氏は、美術系大学の視覚デザインの実技教育歴四五年のキャリアで、「人間が表現する図や絵画の深層心理学的アプローチ」の実践的研究でも知られています。軌道に乗りかけたばかりの天才アートミュージアムを、飛躍的段階へ導いていただけると確信しています。

＝アール・ブリュット、京都から世界へ＝

最後に、今後私は顧問としての活動を続けますので、引き続きよろしくお願い致します。

顧問（前理事長）松谷昌順

理事長就任のご挨拶

今年四月より松谷昌順前理事長の後を引き継ぐことになりました高島寛です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 障碍者芸術推進研究機構は、本年度設立五期目をむかえました。この間、天才アートミュージアムの立ち上げや各種のイベント事業など、障碍者芸術活動の推進・支援に尽力された前理事長はじめ、理事の方々に心より敬意を表する次第です。あわせて、当機構にご理解とご支援を賜りました京都市はじめ、関係各位に深く感謝とお礼を申し上げます。

天才アートミュージアムは着実に社会に認知されるところとなり、各方面からその活動が期待と同時に注目されるようになってきました。来るべき共生社会の具現化に更なる努力を重ねる所存ですが、まずはミュージアムがもつ機能の充実をはかるため、所属アーチスト一人ひとりにふさわしい制作環境の整備やアーカイブ機能の拡充、そして作品展示の常設化が当面の課題となります。やがては地域社会に根ざしながら、アール・ブリュットの新たなアートの波をこの文化芸術都市・京都から世界に伝播できればと希求しています。

どうぞ一層のご理解と倍旧のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事長　高島　寛

天才アートミュージアム・新道アトリエのある元新道小学校（東山区）

この事業は京都府地域力再生支援事業の助成を受けて開設しています

市民絵画教室募集中

昨年十月からスタートした市民向け「おとなの絵画教室」は、随時参加者を募集しています。講師は、当ミュージアム顧問で京都精華大学名誉教授の松谷昌順です。大学での四〇年の美術教育の経験生かし、初心者の方にも、基礎デッサン・水彩画など、懇切に指導いたします。

毎月 第一、第三、第四金曜日、
午後二時～四時

会場は、東山区の元新道小学校内
天才アートアトリエ。

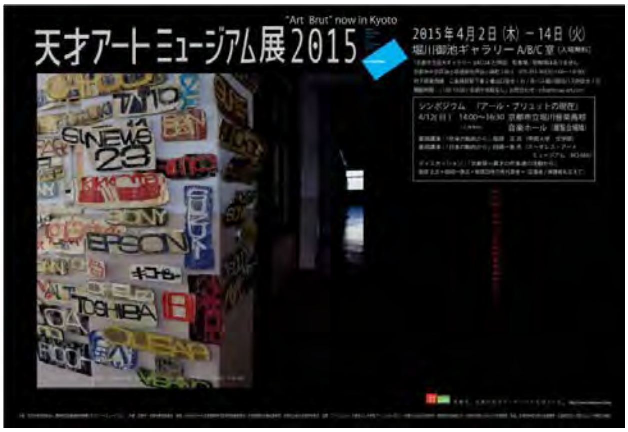
会費は、月四〇〇〇円
※材料費含む・入会金無料

＊興味をお持ちの方、まずは見学にお越しください。実際に少し手ほどきしながら絵画を楽しむ体験もしていただけます！

展覧会　報告

『天才アートミュージアム2015』展

2012年より毎年開催しています天才アートミュージアム展を、本年四月二日より十四日まで、堀川御池ギャラリーにて開催しました。本年は前号でもお知らせした通り、PARASOPHIA『京都国際現代芸術祭2015』が三月から五月まで開催されましたので、そのサテライトイベントとして同芸術祭組織委員会の後援指定を受けて開催いたしました。



展覧会ポスター（作品は富田晃生氏「ロゴ・アート」）

今展では、当ミュージアムと京都府内のアート活動を進めている福祉施設や京都市立の総合支援学校など8団体の作家五五名の平面・立体作品合わせて二〇六点を展示しました。

展覧会場内ギャラリーA室の様子

会期十三日間のほぼ三分の二が雨天に見舞われ、土日祝日が前回より四日も少ない条件にもかかわらず、一日当たりの入場者数は一名減にとどまり総入場者数一〇七七名を記録しました。今展では外国籍の方の入場が昨年のほぼ倍増の百名近くあり、訪日客が急増している状況を反映しています。国内では、京都や近隣府県の方々を中心に「リピーター」として回を追ってファンの方々が増えていることが、会場アンケートの結果から読み取れます。主催者として心強く、身の引き締まる思いです。

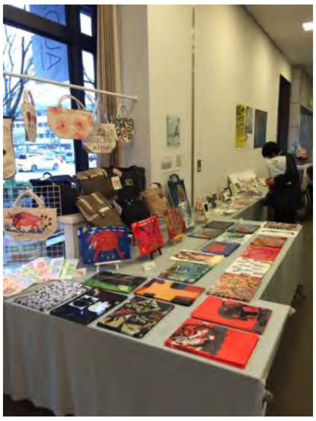
また、会期中の十二日には「アール・ブリュットの現在（いま）」と題してシンポジウムを開催しました。基調講演として、甲南大学の服部 正氏より「欧米の動向から」の題でヨーロッパの最新の状況を、滋賀県のNoMA美術館の田端一恵氏より「日本の動向から」の題で日本の最新の状況を分かりやすく話していただきました。

第二部のパネルディスカッションでは、「京都発～異才の作家達の活動から」と題して、服部 正、田端一恵の両氏に、出展団体より駒井元竜氏(アトリエとも)、中島慎也氏(京都市伏見学園アトリエやっほう!)、主催者より重光 豊・富田千果子が加わって、それぞれの取組やアーティストたちの興味深い創作過程などの報告や、今後の展開の可能性や課題など活発な討議を行いました。

シンポジウムの様子
（左；服部 正氏／右；田端一恵氏）

現在、欧米ばかりでなく日本やアジア各地など、世界的に障碍のある人の芸術活動やその作品が、「アール・ブリュット」などの呼称で大きく注目を集めるようになってきていること、これを追い風として着実にまた大胆に取組を進めるべきなど、今後の活動のあり方を示しました。

本展覧会、シンポジウムの成果を踏まえ、今後も着実に活動を続けながら、さらに取組の幅を広げてまいります。


ミュージアムグッズの展示

制作コーナーで描くアーティスト

《次回展予告》

今後の天才アートミュージアム展は、来年の2016年1月21日～31日に堀川御池ギャラリーで天才アートミュージアム所属作家の『第1回グループ展』を開催いたします。

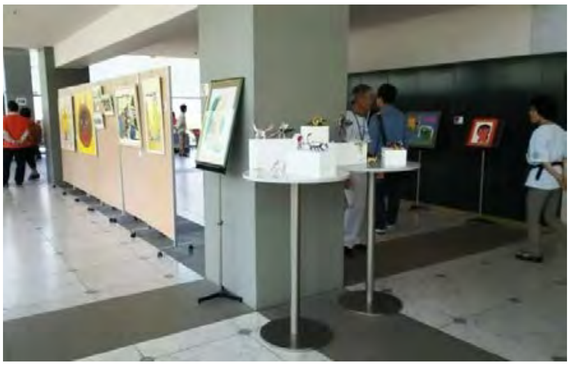
また、同年11月5日～20日に同じく堀川御池ギャラリーで第5回記念の『天才アートミュージアム展 2016』を開催いたします。

『天才アートがやってきた！展』増殖中！

昨年九月と本年一月に、伏見区の納屋町商店街振興組合と南浜社会福祉協議会より依頼を受けて、商店街の中などで『天才アートがやってきた！展 in 納屋町』を初めて開催しました（季報6号4頁ならびに同7号6頁に記事）が、この取組と記事が反響し、本年五月八日から二十日まで中京区役所1階展示コーナーにて『天才アートがやってきた！作品展』を開催しました。同区役所では5月の憲法月間にちなんだ展示を毎年されていますが、本年は「ぜひ天才アートミュージアムの作品を！」ということで要請をいただき二七点を展示しました。

中京区役所ロビー展示

さらに六月六日には、経糸の会主催の「第十五回ヒューマンふれあいコンサート」会場の京都コンサートホールで、作品計二一点を展示しました。



京都コンサートホールでの展示

また、八月一日から十三日まで、東山区総合庁舎1階区民ホールで、『天才アートがやってきた！展 in 東山』を開催し、百坪以上もある広いホールに作品四六点を展示しました。こちらは新道アトリエから徒歩十分ほどのところでの地元開催でした。

どの展示会場においても、「これまであまり見たことがない作品・作風で感動した、良かった」などの声を聞くことができました。

この『天才アートがやってきた！展』シリーズは、今後も『青空美術館』などとともに、京都で「増殖」を続けていくことでしょう。

次はどこに出現するか乞ご期待！

東山区民ホール展示

アトリエ会 近況

五月十日のアトリエ会では、京都の著名なフォト・アートグループのKYOTOGRAPHIEさんとのコラボレーション企画で、「お面の制作と写真撮影会」のワークショップを開催しました。

天才アートミュージアムのアーティストとともに、京都市立呉竹総合支援学校写真サークルの皆さんも参加されました。

まず、KYOTOGRAPHIEの学芸員朴鈴子さんに、世界のお面について解説をしていただき、皆がそれぞれ思い思いのお面をデザインし、制作しました。

そして、できたお面を身に着け、当アトリエ向かいの建仁寺摩利支尊天堂にて、お互いがモデルとカメラマンとなるパフォーマンスで撮影会をしました。

お面の作品はどれもユニークな出来栄えで、リオのカーニバルに劣らぬデザインと評価された作品もありました。

ポラロイドカメラを使った撮影会での写真は、構図やフォーカスがとても面白いものがたくさんあります。いつか近いうちに、このお面と写真の展示会も是非とも開催したいと考えています。

(上)紙と絵具で面作り
(右)出来上がった面をつけてパフォーマンス。制作・撮影とも天才アートのアーティスト

天才アートミュージアム 公式ショップ商品紹介

◆特定非営利活動法人 障碍者芸術推進研究機構の愛称で 2011 年４月に設立しました。

◆表現・制作に興味関心・能力のある人たちが、伸び伸びと活動に打ち込める場を恒常的に確保し、その作品などの展示と制作過程や作品の評価研究・デザイン活用研究などを行うことを目的としています。

◆さらに障碍のある人の多様な余暇活用のありかたや、作品の販売・デザイン化による本人の能力を生かした新たな就労形態のあり方を開発し、より豊かな自立と社会参加の形によるノーマリゼーション社会の実現を目指しています。

２０１５年 新作クリアファイル ネット販売スタート！

天才アートミュージアム公式ショップは、すべて天才アートミュージアム所属作家の作品をデザイン活用したオリジナルグッズです。当機構は、販売収益を還元することで、障碍のある人の自立と社会参加に寄与することを目指しています。

２０１５年４月の展覧会で展示させていただいた新製品のクリアファイル６種類をネットショップに追加しました！

展覧会ポスターのメインビジュアルにもなった「ロゴアート」や「エンペラーペンギン」「スーパー羊」などインパクトのある作品ばかりです。

これでクリアファイルは全２０種類を揃えています。ぜひ「天才アートミュージアム公式ショップでご覧ください。

ウェブ・ネットショップ担当　高橋知里

ホームページ　www.tensai-art.com

新作クリアファイル　@300 円

天才アートミュージアムのアーティスト作品をポストカードにしました！

全25作品　＠１００円

■十二枚セット割引もあります　１，０００円

送料　１６４円

帆布バッグ

オリジナルデザイン

天才アートミュージアムのアーティストの作品をワンポイントに使用した厚手の帆布地のリュックタイプです。性別・年代を問わずお使いいただけるシンプルでおしゃれなデザインです。

素材：綿 100%　ステッチ部分他・本革

サイズ：高さ 36×　横幅 41×　マチ 11cm

色：ベージュ、カーキ、クロ

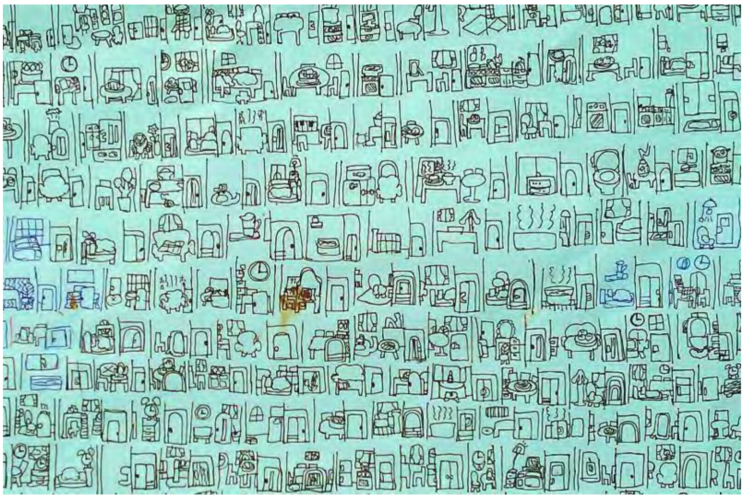
７，６００円（送料無料）

他のデザインのバッグもあります。

詳しくはホームページへ

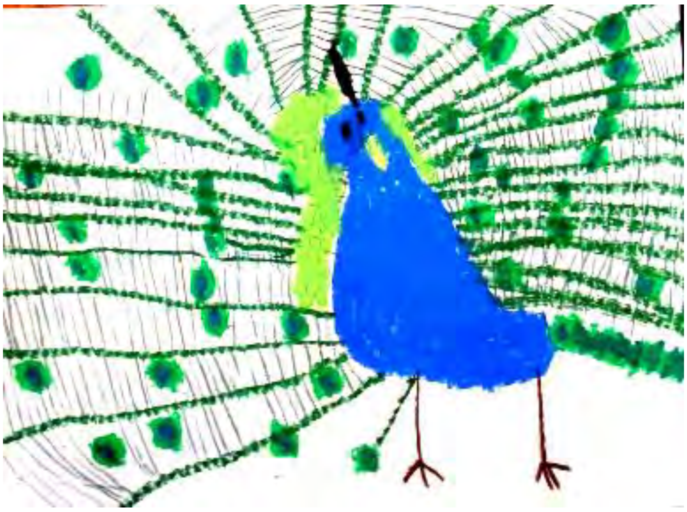
ギャラリー 作品紹介

元新道小学校(京都市東山区大和大路通四条下る)のレトロな校舎に開設した新道アトリエに集い、天才アートのアーティストたちが精力的に創作活動に励んでいます。月日を経ること、回を重ねるごとに進化し、深化していく作品。アーティストの登録も増えて、新たな個性と才能がどんどん開花し多彩な作品が生まれていきます。

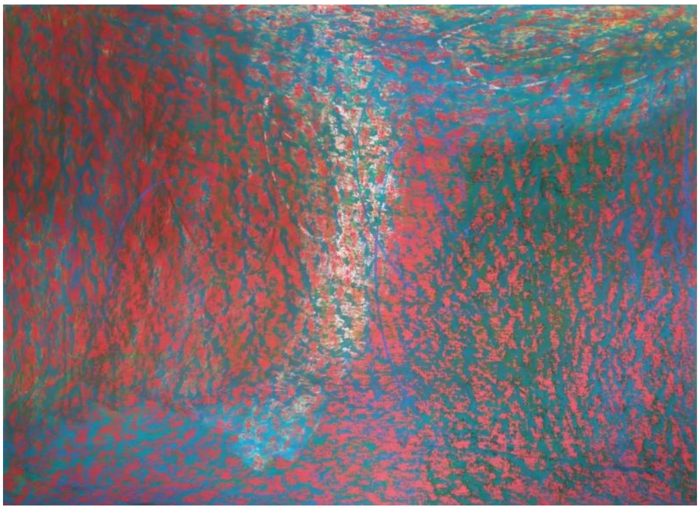


ちはるの絵日記シリーズ「みさきちゃんのおへや」 2014 年
本ちはる Chiharu Moto 2003 年生
紙／ペン 250×354

「サーカス」 2014 年
楠川敦士 Atsushi Kusukawa 1993 年生
キャンバス／アクリルガッシュ 606×728



「くじゃく」 2015 年
長村 駿 Suguru Osamura 1991 年生
画用紙／クレパス 390×540



シリーズ「クレパスのグラデーション」 2015 年
川嶋誉大 Yoshihiro Kawashima 1996 年生
画用紙／クレパス 380×540

「トモダチノ顔」 2015 年
善定美幸 Miyuki Zenjyo 1982 年生
紙／アクリルガッシュ 420×310

ヨーロッパ事情
ウィーンのグッギング芸術村を訪ねて

高島　寛

オーストリアの首都、ウィーンの北西二〇キロのなだらかな丘陵地に、グッギング芸術村はあります。もとは精神病院があった場所ですが、特筆すべきは〝芸術家の家〟と呼ばれる施設です。この家には、芸術的な才能に恵まれた精神障碍をもつ人たちが全国各地から、時には国外から選ばれてきて共同生活を営んでいることです。いわばアール・ブリュットのエリートたちといった集団です。彼等は自立した芸術家として認知されていて、まったく自由に作品制作に励んでいます。

一人ひとり個室を持ち、彼等と生活を共にする献身的なスタッフがいて、何ひとつ生活に不自由は見当たりません。現在は十二人の芸術家（うち女性は一人）が生活していますが、ほとんどが高齢者であることも特徴です。

右写真はミュージアムの外観

左・「芸術家の家」のファサード　外壁が作品で埋め尽くされている

私が訪ねた四月の中頃のウィーンの森は、厳しい冬の眠りから覚めて、新緑の萌え出る春を謳歌しています。ところどころに木蓮の白、レンギョウの黄、ボケの木の赤などの花々が彩りを添えていますが、そんな自然を圧倒するような存在感で〝芸術家の家〟があります。なにせ二階建ての建物の外壁は隙間なく彼等の手による絵やイラストや記号などで埋めつくされているのです。外壁だけではありません。個室も思い思いに工夫した装飾でデザインされています。故アウグスト・ウワラの室内は、彼の多神教的な哲学をモチーフにしたカラフルなイラストで埋め尽くされて話題を集めました。

ところが饒舌な外壁の表象とはうって変わって、内部は森閑とした空気が漂っています。少し様子を窺うとこんな雰囲気です。二階のリビング・スペースには五〜六人の芸術家たちがソファーで寛いでいますが、誰ひとり言葉を発することはなく静かな時を共有しているように見えます。また二人の芸術家はテラスに腰をかけて煙草をふかし、ある芸術家は食堂で全員のテーブルに夕食用の食器を黙々と並べている、といった具合です。そこはまるで時間が止ったような静謐そのものの世界です。

ここは芸術家たちのアトリエ兼住居というより修道院のようで、一人ひとりは自己と向き合って問答をくりかえす修道僧のように私には見えてきます。　（次号へ続く）

京都市・フィレンツェ市
姉妹都市提携五十周年
記念に作品寄贈

本年六月九日、イタリアフィレンツェ市で京都市との姉妹都市提携五十周年記念行事が開催されました。フィレンツェ市長がアール・ブリュット作品に強い関心をお持ちとのことで、京都市からの記念贈呈品の一つとして、天才アートミュージアムの庄野隆太さんの『不動明王』が選ばれました。現代の仏師の最高峰といわれる松本明慶氏の作品をモデルにしたもので、京都をイメージできる相応しい作品です。

《写真》門川大作京都市長よりパパロッティ副市長に作品贈呈（門川市長オフィシャルサイトより）

「不動明王」庄野隆太

青空美術館　６号開設

この４月よりＪＲ・地下鉄二条駅の西側にある下水道朱雀幹線の工事基地を囲む塀に『青空美術館６号』を開設しました。工事現場という、ややもすると無機質になりがちな囲い塀に、天才アートの作品画像をパネルにして展示する「街なかにアート」の雰囲気に、通る人の足を止めて心を和ごませます。

こちらの青空美術館は、１号・３号・４号と同様に京都市上下水道局と同教育委員会の全面的なご協力のもとに開設しており、工事の終了予定の平成二九年頃まで展示予定です。

（この他の青空美術館の場所などは季報７号の７頁に掲載しています）

青空美術館６号中京区西ノ京船塚町

ボランティアを募集しています

障碍のある人のアート活動を推進するために、作品を創る環境を整え、作品をアーカイブ＝記録・保存し、作家別にポートフォリオ＝「作品集」を編集・制作すること、作品を商品デザイン化するアイデアを出し、実現させていくこと、活動をPRしていくこと…など、サポートいただけることはたくさんあります。アートを勉強中の若い皆さん、様々な分野で活躍されている社会人の皆さん、特技やノウハウを活かして、私たちの活動にぜひご参加ください。

季報掲載 広告主 募集中

『季報天才アート』は、天才アートミュージアムの活動報告をはじめ、所属作家の作品紹介、アール・ブリュットに関するコラムなどを掲載します。発行部数は三千五百部で、会員・協賛団体、関係機関、各地の美術館と、京都市内の主なギャラリー、カフェ、芸術系大学、総合大学などに配布・配架をしています。天才アートミュージアムの活動にご賛同くださる企業様のご協力を、ぜひともよろしくお願いします。お問合せをお待ちしています。

ボランティア募集

下記のような活動に関わってくださる方を募集しています

① 広報誌・季報などの企画・編集
② 作品のデザイン化・商品化などの企画
③ その他、得意分野を生かした活動 など

四条新道アトリエ；京都市東山区大和大路四条下る小松町 130

私たちは、多くのボランティアさんの力を必要としています。
皆様の積極的な参加をお待ちしています。
お問い合わせはホームページから　http://tensai-art.com

一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修
(株)共立ホームエンジニアリング
06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

Kuretake
株式会社 呉 竹

各種印刷/アニメーション仕上げ
福祉工房 P&P

吉村建設工業(株)
075-802-1360

季の味わい、心を包む
水円
京都・東山八坂鳥居前下河原
075-551-0035

京都上鳥羽の印刷会社
MORITA
森田美術印刷

明治安田生命
京都支社
京都市中京区烏丸通御池上ル二条殿町 552
075-241-4811

広告主募集中

- 年４回発行　毎号 3500 部
- １枠 10,000 円～4 回掲載分
- 最終ページ（後ろ表紙）にロゴを掲載

お問合せ・お申込みは
info@tensai-art.com へ

【表紙の作品について】
作者の土屋彰男さんは、平日は就労施設から帰ると夕食をはさんで毎日のように描き、休日は新道アトリエで描くという、同時並行で制作を続けます。彼は動物などの顔を画面いっぱいに描く作風で、左上隅には太陽が顔をのぞかせます。

〈編集後記〉

今年も暑い暑い夏が過ぎ、ようやく朝夕涼しくなってきました。この季報「天才アート」も8号の発行となりました。このたび設立当初から尽力いただいた松谷昌順前理事が退任し、新たに高島寛理事長が引き継ぎました。

あっという間の、しかし中身の濃い3年の月日であったと、季報の編集を振り返り感慨深く思います。毎号掲載しきれないほどの出来事やニュース、そして何より多くの素晴らしい作品が生まれていったこと、天才アーティストが一人、また一人と集い、思い思いの作品に向かうアトリエ、ご父兄やボランティアの皆さん、そして画材を提供してくださった個人や企業、この季報に広告をお寄せくださる企業の皆様、たくさんの方々に支えられながらの歩み。思い浮かべると何とも胸が熱くなります。どうぞ末永くこの活動が続きますように、アトリエに通う皆が健やかに過ごし、豊かな営みを続けられますようにと願うばかり。アール・ブリュットという言葉には、何か曖昧な掴みどころのないままのような感覚を未だに持ち続けています。発足当初、わたしにアール・ブリュットについて教えてくださった松谷前理事長の言葉が不意に思い出されます。「きっとこれからの美術の大きな柱になる。美術を学んでいない天才のアートだ。「天才アートミュージアム」、いいネーミングだろ？」知れば知るほど、なるほど「天才アート」だと実感する。たくさんの方々に天才アートを知っていただきますようにと願い、季報8号の筆をおきます。

画像処理　高橋ちさと（ウエブデザイナー）編集・
構成　植村美樹（ボランティア）